



学校だより

日野南小学校ホームページ

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/hinominami/>

令和5年1月10日

1月号

横浜市立日野南小学校

大空の心をもち、

未来を自分でつくる日野南っ子

校長 川田 由紀

新しい年、令和5年がスタートいたしました。

本年も、教職員一同、「大空の心」を大切にしながら、チーム一丸となって邁進して参ります。よろしくお願いいたします。

昨年の令和4年も、新型コロナウイルス感染症の流行により、引き続き感染拡大防止のための行動が求められた一年となりました。しかし、感染予防は考慮した上で、可能な限り子どもたちの活動を通常通り行えるよう、知恵を絞り、学校教育活動を進めて参りました。特に、子どもたちにとって思い出に



スカイガーデン(69階)からの眺望

残る校外学習は、なるべく行う方向で調整して参りました。現3年生は、1・2年の時に遠足等を行うことができませんでした。先日の校外学習では、初めて乗る大型バスに興奮し、窓から見える景色に「うわ～海が見える！」と思わず歓声を上げたり、「並んで～」と班ごとに声を掛け合って整列し、はりきって人数確認をしたりしていました。そんな生き生きとした姿を見ると、やはり友だちと一緒に行く校外学習は、日常の学習では味わえない感動があるのだと改めて思いました。今年も感染予防には配慮しながら、可能な限り、直接体験や、地域の方々、専門家の方々に関わる体験を行っていきたいと思います。

ところで、昨年一年の世相を表す漢字は「戦」でした。ウクライナへの軍事侵攻、円安・物価高など生活の中での「戦い」などから選ばれたそうです。また、冬の北京オリンピックやサッカーワールドカップでの日本選手の活躍もありました。「戦争」は悲しい気持ちになりますが、「熱戦」は心が燃えます。

「戦」といえば、昨年12月15(木)に、3年ぶりに5年生が小坪小学校とサッカーとバスケットボールの交流試合をしました。どのチームも練習の成果を発揮し、一生懸命に試合をしたり応援をしたりしていました。試合の後には、負けてしまい、悔し涙を流す姿も見られました。負けから何を学ぶのか…。感心したのは、誰一人、対戦相手のことを悪く言う児童がいなかったことです。人は悔しい思いをすると「相手がずるくて…」「審判が…」等、安易に悔しい理由を相手のせいにしてしまうことがあります。そうではなく、純粋に負けたことへの悔し涙は、清々しく感じました。「もっと強くなりたい。」「もっと練習しなくちゃいけない。」と次への努力を誓ったり、「負けて悔しいけれど、精一杯やったから楽しかった。」と気持ちを切り替えたり、そんな心のリカバリーを学ぶ機会にもなったと思います。

令和5年は、いったいどのような年になるのでしょうか。今年は、世界の皆が心安らかに日々を送れるような年になるよう願うばかりです。予測不能の世の中であると言われていますが、「未来を自分でつくる」ための基となる活動の後押しをして参ります。